

「広島デジフラ構想 2026（仮称）」の骨子案について

1 要旨

「広島デジフラ構想」の計画期間が令和 8 年 12 月末で終期を迎えることから、上位計画である「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」、及び「社会資本未来プラン」の改定内容と整合を図った上で、これまでの成果や課題、社会経済情勢の変化等を踏まえて、「広島デジフラ構想 2026（仮称）」を策定する。

2 現行構想の取組成果

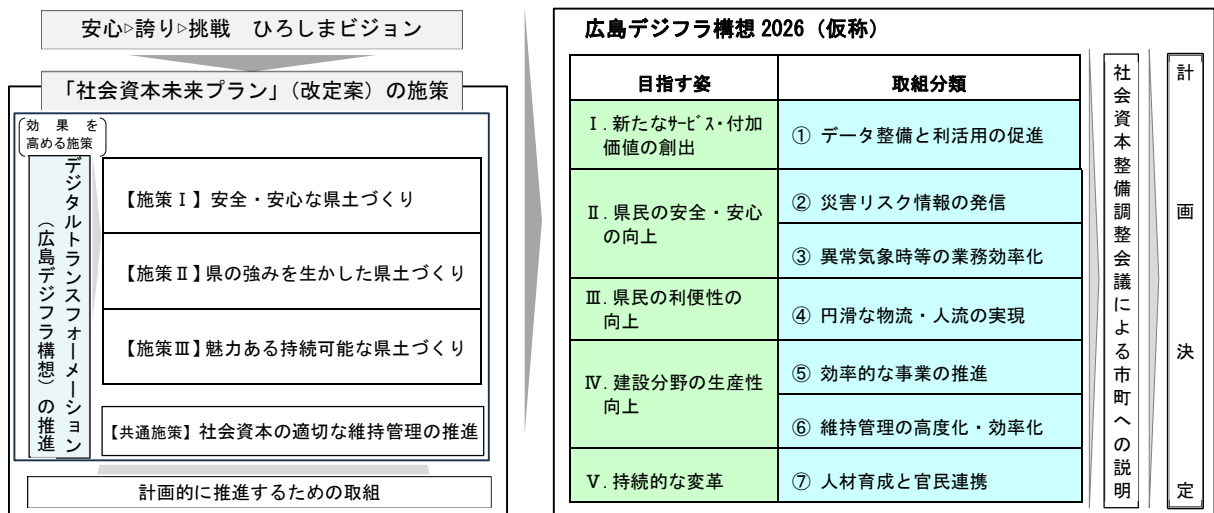
- 県内の公共土木施設等に関するデジタル情報を一元化・オープン化して公開するインフラマネジメント基盤 DoboX については、令和 4 年 6 月の運用開始後、官民で連携してデータの拡充や利活用の促進を図るなど、全国でも先駆的な取組を進めたことにより、ユースケースの開発など、新たなサービス・付加価値が創出され始めている。
- 全体としては 51 の取組案のうち、41 の取組が実装されており、県民の安全・安心と利便性向上、建設分野の生産性向上、持続的な変革につながる成果が得られた。

3 骨子案の概要【別紙参照】

(1) 計画期間 令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間）

(2) 策定に当たっての考え方

- 現構想で掲げた「5 つの目指す姿」の実現に向けて、将来の担い手不足、自然災害リスクの増大やインフラ老朽化の進行など、より深刻化した課題等に的確に対応できるよう見直しを行う。
- 中小建設事業者を含めた建設分野全体へデジタル技術の普及を促進し、省力化・効率化による生産性向上に寄与する取組を強化するとともに、これまでに得られた成果の更なる活用や、AI などデジタル技術の急速な進展を踏まえながら、目指す姿の実現に向け取組を進める。



4 スケジュール

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
骨子案公表 ○	社会資本整備調整会議（市町調整を含む）	計画素案公表 ○	成案 ○	

1 策定の趣旨		2 現行構想の振り返り（主な成果と課題）				3 建設分野を取り巻く環境の変化		
		目指す姿	目指す姿・取組分類	主な成果（R8.3時点 実装：41、実証：5、検討：1、その他：4）	課題	社会情勢の変化		
（１）策定の趣旨 建設分野における調査、設計、施工から維持管理のあらゆる段階において、デジタル技術を活用し、官民が連携してインフラをより効果的・効率的にマネジメントしていくために策定した「広島デジフラ構想」が今年度に終期を迎えることから、これまでの取組成果・効果や課題、社会経済情勢の変化を踏まえ、次期構想を策定する。	（２）構想の位置付け 本構想は、「社会資本未来プラン」が掲げる施策の効果を高めるための計画として位置付けられている。 また、事業別整備計画など関連計画においても、デジタル技術の活用等に取り組んでいくこととしており、本構想はこれらを含し、具体的な取組をとりまとめている。	Ⅰ.新たなサービス・付加価値の創出	①データの一元化・オープン化 インフラデータの一元化・オープンデータ化と、新たなサービス・付加価値の創出を促す	（実装：5、実証：0、検討：0、その他：1） ・インフラマネジメント基盤DoboXの運用開始 ・3D都市モデルを活用した観光アプリ開発 ・DoboXなどオープンデータを活用した民間事業者による防災アプリの運用開始 ・国や民間企業と連携した不動産・住宅関連業務効率化に向けたアプリ開発 など	・インフラデータの利活用を促進する必要がある ・DoboXに搭載したデータを最新のものに維持・更新する必要がある	（１）将来の担い手不足 将来の担い手不足や次世代への技術承継が懸念される。 （２）自然災害リスクの増大 災害発生時の速やかな復旧・復興や、災害リスク情報を発信する取組が求められている。 （３）インフラの老朽化の進行 建設から50年以上経過する施設の割合が加速度的に進行する。 （４）デジタル技術等の進展 現場の効率化向上に資するデジタル技術や新技術の更なる活用による取組が求められている。		
			②価値あるデータの整備 3次元データなどの新たなデータ整備とデータ利活用を後押し					
		Ⅱ.県民の安全・安心の向上	③災害リスク情報の発信 きめ細かな災害リスク情報の発信や高精度化、よりわかりやすい情報発信	（実装：5、実証：0、検討：0、その他：0） ・災害リスク情報の2Dの重ね合わせや3D都市モデルによる可視化 ・現地の土砂災害リスクをスマートフォンで重ねて見せる「キキミルAR」の運用開始 など	・個人の状況を踏まえたわかりやすい情報発信により避難行動を促す必要がある			
			④異常気象時の業務効率化 水防活動や災害復旧などに従事する関係者が効率的に業務を進められる環境整備	（実装：3、実証：0、検討：0、その他：0） ・監視カメラの設置拡充と表示の一元化 ・災害査定事務の効率化 ・AIを活用したダム流入予測システムの運用	・技術の進展を踏まえ更なる業務効率化を図っていく必要がある			
		Ⅲ.県民の利便性の向上	⑤円滑な物流・人流の実現 情報の流れを可視化・分析し、ボトルネックを改善し、より円滑に流れる仕組みを構築	（実装：7、実証：1、検討：1、その他：0） ・VRを活用した空き家の内覧サービス ・人流データの分析結果を活用した空港アクセス路線の開設、クルーズ船客の行動分析 など	・ビッグデータの活用による渋滞対策など、実装に至っていない取組があり、引き続き検討を進めていく必要がある			
（３）次期構想の目指す姿 ・新たなサービス・付加価値の創出 ・県民の安全・安心の向上 ・県民の利便性の向上 ・建設分野の生産性向上 ・持続的な変革	（４）次期構想の取組期間 令和8（2026）年度～ 令和12（2030）年度（5年間）	Ⅳ.建設分野の生産性向上	⑥効率的な事業の推進 あらゆる段階において、デジタル技術を最大限に活用し、業務そのものやプロセスを変革	（実装：13、実証：0、検討：0、その他：0） ・ICT活用工事やCIM活用業務などの取組が普及 ・電子契約システムの運用開始 ・AIチャットボットを活用した業務サポート など	・今後も想定される担い手不足に対し、官民ともに業務の省力化・効率化を進めていく必要がある	今後実用化が期待される新たなデジタル技術 （１）爆発的に進展するAI技術 より高性能に進化した生成AIモデル 現実世界を認識・判断し、自律的に行動するフィジカルAI （２）高速化・広域化が進む情報通信技術 超高速・低遅延通信が可能なBeyond 5G（6G） 山間部等どこでも通信可能な衛星通信システム （３）量子コンピュータ 組合せ最適化により複雑な問題を瞬時に解析するコンピュータ （４）自動車等の完全自動運転 人間が一切操作を行わない完全自動運転技術(AIベース) （５）高度なリモートセンシング技術 衛星等により離れた場所から、地表や大気などに関する多様なデータを高精度に測定・観測する技術 （６）XR（クロスリアリティ） VR(仮想現実)やAR(拡張現実)、MR(複合現実)などを組み合わせ、物理空間とデジタル情報を融合させる技術		
		Ⅴ.持続的な変革	⑦維持管理の高度化・効率化 デジタル技術を活用し、従来の維持管理手法を高度化・効率化	（実装：8、実証：4、検討：0、その他：0） ・ドローンによる施設点検、公園の獣害対策 ・除雪作業支援技術などの構築 ・台帳附図の電子化とオープンデータ化 など	・加速度的に進行するインフラの老朽化に対し、維持管理の高度化・効率化が求められている			
			⑧人材育成と官民連携 デジタルリテラシーを有する人材の確保・育成や官民連携体制を構築	（実装：0、実証：0、検討：0、その他：3） ・ICT活用に向けた講習会、現場見学会の開催 ・大学等と連携したデータ利活用によるデジタル人材の育成 など	・デジタル技術を活用することの有効性と必要性の理解が進んでいない			
4 見直しの方向性				5 次期構想の取組分類と取組の方向性				
現構想における成果、課題及び建設分野を取り巻く環境の変化を踏まえ、次の基本的な考え方により見直しを行う。 【基本的な考え方】 ○人口減少の更なる進展などの社会経済情勢の変化があったものの、現構想策定時から大幅な状況変化はないことから、 現構想で掲げた「5つの目指す姿」の実現に向けて、顕在化した課題等に的確に対応できるように必要な見直しを行う。 ○深刻化する担い手不足を踏まえ、今後も持続的なインフラマネジメント（整備・管理）ができるよう、 ICT活用工事やCIMモデルの活用などのデジタル技術の普及を中小建設事業者へも拡大し、業界全体のデジタル化による省力化・効率化を進め生産性向上を図るとともに、今後も進展するデジタル技術の動向を捉え、先進的に取り組む。 ○建設DXのトップランナーとして先駆的に構築した DoboXを活用した民間主導のユースケースや新たなサービス・付加価値の創出に向けた取組を継続的に進める。 ○以上の取組に加えて、気候変動等により激甚化・頻発化する災害や、インフラ老朽化の進展等の課題に対しても、これまでに 得られた成果の更なる活用や、AIなどデジタル技術の進展を踏まえた見直し を行いながら、目指す姿の実現に向け取組を進める。				目指す姿	取組分類（現行）	取組分類（見直し）	取組の方向性	
				Ⅰ.新たなサービス・付加価値の創出	①データの一元化・オープン化	①データ整備と利活用の促進	・データ利活用促進に向けたDoboXのオープンデータの拡充 ・【新規】関係機関と連携したデータ更新のスキーム構築 ・【新規】データ利用者が使いやすいDoboXの操作性と検索性の改善 ・【新規】更なるユースケースの開発促進・収集・発信	
					②価値あるデータの整備			
				Ⅱ.県民の安全・安心の向上	③災害リスク情報の発信	②災害リスク情報の発信	・DoboXを活用した災害リスクの認知・把握を促す情報の可視化・高度化 ・水害リスクラインなど災害リスクの予測の高度化 ・【新規】個人の状況に応じた災害リスク情報発信へのAI活用の検討	
					④異常気象時の業務効率化	③異常気象時等の業務効率化		・異常気象時等の状況把握と情報共有の迅速化・効率化 ・災害からの速やかな復旧・復興に向けた調査・設計の迅速化 ・【新規】異常気象時等における危機管理対応の省人化
Ⅲ.県民の利便性の向上	⑤円滑な物流・人流の実現	④円滑な物流・人流の実現	・ビッグデータを活用した道路交通の円滑化やデジタル技術を活用した港湾物流の効率化 ・インフラツーリズムを促す観光資源としての土木施設の魅力発信					
Ⅳ.建設分野の生産性向上	⑥効率的な事業の推進	⑤効率的な事業の推進	・建設業界全体へのi-Construction（ICT活用工事など）の普及促進 ・【新規】建設分野へのフィジカルAIの導入検討 ・【新規】県と市町が連携して業務効率化を図るための施設管理情報の共有化の検討					
	⑦維持管理の高度化・効率化	⑥維持管理の高度化・効率化		・UAV等を活用した点検・巡視の高度化 ・AI等を活用した施設の劣化予測等による維持管理の高度化 ・【新規】AI等を活用した施設健全度評価による業務の効率化				
					Ⅴ.持続的な変革	⑧人材育成と官民連携	⑦人材育成と官民連携	・ニーズやスキルに応じた研修など段階的・実践的な人材育成の取組の強化 ・産・学・官が連携してデジタル技術を活用し課題解決につながる取組を促進
ポイント 見直しのポイント	○人口減少の更なる進展を踏まえ、中小建設事業者を含めた 建設分野全体へデジタル技術の普及を促進し、省力化・効率化による生産性向上に寄与する取組を強化 ○AIなど 新たなデジタル技術の進展を踏まえた取組 の見直し ○取組毎に「 将来的に目指す姿（実装） 」と「 5年後の到達目標（部分実装又は実証） 」を設定							

①データの一元化・オープン化

インフラマネジメント基盤DoboXの構築・運用拡大



不動産データ、災害リスク関連データなどの可視化ページを順次開設



- 【データ活用事例】
- ・3次元点群データ等を、建設事業者が調査・設計業務等に活用
 - ・3次元点群データによる人工地形の判読など大学の研究に活用
 - ・避難情報等の防災情報を民間事業者の開発したアプリ等に活用

②価値あるデータの整備

県土全体の3次元デジタル化



県内全域で3次元点群データを公開（R4.6）



都市計画基礎調査結果のオープンデータ化を完了（R6.8）

民間等のニーズを踏まえたデータ整備・利活用の推進



データ活用による地域課題解決に向けたアイデアやアプリケーションを募集するコンテストとアプリケーション開発等を支援するハッカソンの開催（R5～）

③災害リスク情報の発信

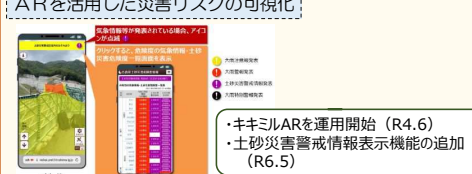
災害リスク情報の高度化



土砂災害危険度情報を最新の降雨データを基に全面改定（R3.6）



災害リスク情報等の3Dマップ化



ARを活用した災害リスクの可視化

④異常気象時の業務効率化

画像情報等の充実・強化



道路、河川、港湾等のカメラ情報を一元化（R5.3）



AIを活用したダム操作を支援するシステム構築



災害発生直後の調査・設計の迅速化

⑤円滑な物流・人流の実現

効果的・効率的な空き家対策の推進



VR化した物件数が増やし情報を充実（R4.6）



人流データから移動実態や潜在需要を取得・分析し、1年間の実証を経て広島線、五日市線が運行開始（R6.12）



DoboXの航路情報や施設写真を、JR西日本が運営する観光ナビアプリに連携し観光情報を充実（R5.3）

⑥効率的な事業の推進

主要構造物におけるCIMの完全実施



CIM活用業務の適用範囲を拡大（R3～R7年度：114件（実施累計））



土工工事におけるICT活用工事の完全実施



公共事業の調達事務の電子化

⑦維持管理の高度化・効率化

ドローン等を活用した施設点検の高度化・効率化



ドローンを用いた橋梁点検を実施（R4.10）



除雪車に操作支援システムを設置（R4.10）



道路台帳附図、港湾・漁港台帳閲覧の利便性向上

⑧人材育成と官民連携

デジタルリテラシー向上に係る研修の実施



ICTチャレンジ実践講座（R4～）



建設現場におけるDX推進のための官民共同の取組



建設現場のDX推進のための官民共同の取組